

V. Weisskopf 教授の言葉

(中井 浩二)

「文化としての芸術」と言うと、何を今更という感じがする。
「文化としての学術」という言葉は、何故か耳になじまない。
学術と芸術は、ともに人間の昂揚心に基づく精神的行為である。
私たちの学術に対する捉え方に問題があるのではなかろうか？

V. Weisskopf 教授は「科学者の社会貢献」と題する講演で、
次のように学術の精神的・文化的な面を強調された。

Pollutionには、Material Pollution と Mental Pollution がある。
前者は、化学汚染、放射能汚染などの物質的汚染である。この
タイプの汚染は技術的に解決する道があるはずで、科学技術より
も政治・経済の問題が大きい。誠実な政治、良心的な経済政策に
よって解決が得られる問題であろう。

後者の精神的汚染はもっと恐ろしい。若者は自己昂揚心を失い
刹那的な悦びを求めて麻薬など非社会的な行為に走る。若者で
なくても人生の目標を見失った人達は家庭を忘れ、職場における
士気を失う。結果としていろいろな物質的汚染にも結びつく。

人類を精神的汚染から守るものは、「学術」と「芸術」である。
人類が他の動物と異なる点は、自己の昂揚を求める気持ちである。
これを失っては、個人も、家庭も、社会も、全てが乱れてしまう。
若者が憧れ、人々に夢を与える知的な世界を築くことが「学術」
の最も大切な社会貢献である。

学術は社会の精神的・文化的風土を高める。学術研究の結果と
して生まれる経済的・社会的効果も大切であるが、学術のより
本質的な意義を見失ってはならない。「文化としての学術」と
いう言葉が、もっと自然に理解される社会にしたいものである。